

# プラネタリウムのひみつ☆

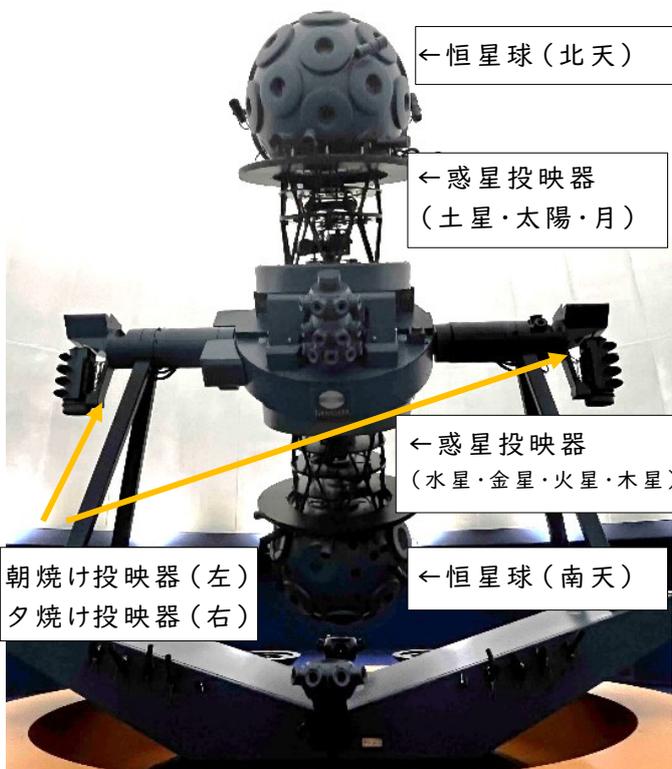
黒部市吉田科学館 中瀬 公子

28

## ● 黒部市吉田科学館のプラネタリウムの仕組みに迫る！

今年 2023 年は、プラネタリウム誕生 100 周年です。プラネタリウムの歴史は、1923 年ドイツ博物館で行われた試験公開から始まります。日本では、1937 年に大阪でプラネタリウムが初公開され、現在では国内に 300 以上のプラネタリウム施設があります。

黒部市吉田科学館では、1986 年の開館と同時に、プラネタリウム投映が始まりました。開館当初から稼働している光学式プラネタリウム投映機「MS-20AT」は今年で 37 歳、今日も美しい星空を映してくれています。



さて、当館のプラネタリウム投映機、よく見ると、複雑な形をしていると思いませんか？

星を投映するのは、上下についている大きな丸い恒星球。南北合わせてあわせて約 40 万個の星を映し出します。

上下の恒星球の間にある棚のような部分には、惑星投映器が配置されています。それぞれの惑星や太陽・月の動きを再現するため、歯車を使って調整しています。

その他には、明け方や夕方の方の色を再現する朝焼け投映器、夕焼け投映器、一等星を映し出すブライトスター投映器などがあります。

さて、プラネタリウムで再現できるのは、黒部の星空だけではありません。

- ① 地球の自転による見かけの星の動き (日周運動)
- ② 地球のあらゆる場所で見られる星空の再現 (緯度変化)
- ③ 歳差運動による変化 を再現することができます。

プラネタリウムでは、世界中の星空の再現に加え、過去の星空から未来の星空まで時間を自由に操ることが可能です。この機会にプラネタリウムが映し出す星空に加え、プラネタリウム投映機本体の仕組みや動きにも注目してはいかがでしょうか。

